

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	日本語III-1 (Japanese III-1) 2011031-022					担当教員	村越 真紀 (ムラコシ マキ)		
科目区分	教養科目 (留学生 科目)	必修・ 選択区分	必修	単位 数	1	配当年次	3年次	開講期	前期
科目特性	資格対応科目／知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
日本語能力試験（JLPT）N1に合格することを目指す。 卒業論文やレポートを書くために必要となる読解力と作文力の養成に力を入れる。 N1 レベルの語彙を習得する。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力／コミュニケーション能力
③ 授業の進め方・指示事項
状況によって、試験のやり方が変わる。詳しいことは試験の前に説明する。 毎回、授業の最後に、出席確認を兼ねた小テストを行う。 授業の前：次の授業にそなえて準備しておくこと。 授業の後：授業の内容を確認すること。 教室では、母語や英語を使わず、日本語で話すこと。 授業はすべて日本語で行う。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
日本事情1、日本事情2、日本語I-1、日本語I-2、日本語II-1、日本語II-2を履修しておくことが望ましい。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 日本語能力試験（JLPT）N1 レベルの読解や語彙の問題が、授業でやった範囲内であれば90%以上得点できた。 (ii) 身近な社会問題に対し、自分の意見（理由も含めて）を準備し、原稿を見ずに流暢に発表できた。 (iii) 身近な社会問題に対し、ネイティブチェックが無くても、自分の意見（理由も含めて）を適切な構成で800～1000字にまとめ、おおよそ意味が通るように書けた。
⑥ テキスト（教科書）
福岡理恵子他（2011）『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』スリーエーネットワーク
⑦ 参考図書・指定図書
友松悦子他（2010年）『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』アルク 二通信子、佐藤不二子（2020年）『新訂版留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネット

ワーク

日本語能力試験問題研究会（2011年）『日本語能力試験直前対策 N1 文字・語彙・文法』国書刊行会  
 伊能 裕晃他（2011年）『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N1』スリーエーネットワーク  
 ABK 財団法人 アジア学生文化協会（2014年）『TRY! 日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語』アスク

⑧ ループリック

評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 日本語能力試験 (JLPT) N1 レベルの読解や語彙の問題が解ける。	授業でやった範囲を超えて、N1 レベルの読解等の問題で 80% 以上得点できた。	授業でやった範囲内の N1 レベルの読解等の問題で、90% 以上得点できた。	授業でやった範囲内の N1 レベルの読解等の問題で、75～89% 得点できた。	授業でやった範囲内の N1 レベルの読解等の問題で、60～74% 得点できた。	授業でやった範囲内の N1 レベルの読解等の問題で、60% 以上得点できなかつた。
(ii) 身近な社会問題に対し、自分の意見を理由も含めて述べられる。	身近な社会問題に対する自分の意見（理由も含む）を、原稿を見ずに流暢に発表でき、質問にも答えられた。	身近な社会問題に対する自分の意見（理由も含む）を、原稿を見ずに流暢に発表できた。	身近な社会問題に対する自分の意見（理由も含む）を、原稿を見ずに発表できたが、流暢ではなかつた。	原稿を見ながらであれば、身近な社会問題に対する自分の意見（理由も含む）を流暢に発表できた。	原稿を見ながらであっても、身近な社会問題に対する自分の意見（理由も含む）を流暢に発表できなかつた。
(iii) 身近な社会問題に対する自分の意見を、理由も含めて適切な構成で書ける。	ネイティブチェックが無くても、テーマに対する自分の意見（理由も含む）を、適切な構成で、おおよそ意味が通るように、1000 字以上書けた。	ネイティブチェックが無くても、テーマに対する自分の意見（理由も含む）を、適切な構成で 800～1000 字にまとめ、おおよそ意味が通るように書けた。	テーマに対する自分の意見（理由も含む）を 800～1000 字で書けたが、構成や表現についてネイティブチェックを 1 回受けなければならなかつた。	テーマに対する自分の意見（理由も含む）を 500～800 字で書けたが、構成や表現についてネイティブチェックを 1 回以上受けなければならなかつた。	テーマに対する自分の意見（理由も含む）を 500 字以上書けず、構成や表現についてもネイティブチェックを 2 回以上受けなければならなかつた。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	45%	10%	15%		15%	15%		100%
(i) 日本語能力試験 (JLPT) N1 レベルの読解や語彙の問	45%	10%				5%		60%

題が解ける。							
(ii) 身近な社会問題に対し、自分の意見を理由も含めて述べられる。				15%	5%		20%
(iii) 身近な社会問題に対する自分の意見を、理由も含めて適切な構成で書ける。		15%			5%		20%
フィードバックの方法	スピーチ原稿は添削して返します。小テストは採点して返します。						

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
積極的に授業に参加してください。
授業時間以外にも、自分で勉強してください。

⑪ 授業計画と学習課題		
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） (※特別な持参物)
1	オリエンテーション 自己紹介（2分間） 春休みについて発表	2分間のやや長い自己紹介を準備しておく。春休みについて発表るように準備しておく。 60分
2	文章の仕組みを理解する① 対比	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。 90分
3	文章の仕組みを理解する② 言い換え	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。 90分
4	文章の仕組みを理解する③ 比喩	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。 90分
5	文章の仕組みを理解する④ 疑問提示文	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。 90分
6	問を解く技術を身に付ける① 指示語を問う	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ1の準備をしておく。 90分
7	問を解く技術を身に付ける② 「誰が」「何を」などを問う スピーチ1	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 60分
8	問を解く技術を身に付ける③ 下線部の意味を問う	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ2の準備をしておく。 90分
9	問を解く技術を身に付ける④ 理由を問う	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ2の準備をしておく。 90分

10	問を解く技術を身に付ける⑤ 例を問う	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ2の準備をしておく。	90分
11	全体をつかむ①	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表2の準備をしておく。	90分
12	全体をつかむ②	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表2の準備をしておく。	90分
13	全体をつかむ③	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表2の準備をしておく。	90分
14	情報を探し出す① 広告	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。 スピーチ発表2の準備をしておく。	90分
15	情報を探し出す① 広告2 スピーチ2	前の週の授業内容を復習しておく。前の週に指示されたところを予習しておく。	60分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性